初の明治神宮大会へ

城西国際大学Sports
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
発行者:〒283-8555 千葉県東金市求名1番地　城西国際大学
秋季号
2019年11月
vol.9

試合終了時にマウンドに集まる選手達

〝JOSAI〟映える豊穣の秋

城西国際大学硬式野球部が「実りの秋」を迎えている。「横浜市長杯争奪　第15回関東地区大学野球選手権大会」の決勝戦で東海大学を破り初優勝し、明治神宮野球大会に初出場する。神宮の杜(もり)に「JOSAI」と胸に刻まれたユニフォーム姿が映えるだろう。選手、監督、コーチらの日頃の研鑽がしっかりとした実を結んだ。「豊穣の秋」――。

最優秀選手に選ばれた舘投手

「スポーツにエールを」

小川　秀二
東金商工会議所
会頭

城西国際大学の運動部は、地域との活動に積極的に取り組んでいます。私どもは「まちと」JUのつながり」プロジェクト」を推進していますが、敬意を表して今年度からJUの優秀な選手、運動部に対して表彰することにしました。11月4日、JUフェスティバルで硬式野球部に表彰状をお渡しいたしました。千葉県大学野球リーグ戦で春秋連続優勝の素晴らしい成績に加え、地区の夏祭りに参加、協力してくれるなどの地域貢献を評価いたします。

わたくし自身の緑の深いスポーツといえば、サッカーとラグビーです。地元の小・中学校を卒業してから慶応高校（横浜市・日吉）に進み、サッカー部に入部した。練習場は、慶応大学のサッカー部と同じ場所で、慶応高校のOBで大学の現役選手がコーチで、毎日、絞られました。夏の合宿も「高・大」一緒で、富士五湖の一つである山中湖の湖畔で10日間、猛練習を積みました。合宿最後の日は、山中湖1周のマラソンです。

こうして3年間、サッカーを続けましたが、実は、ラグビーの方が好きなスポーツでした。走るのがあまり速くなく、ボールを持って走るラグビーよりもサッカーの方が「まだ（活躍の）見込みがある」ということでしょう。

大学に入学してからは、スポーツといえば、ラグビー観戦でした。いまもそうです。真剣さが伝わってくる大学ラグビーが好きで、東京の秩父宮ラグビー場に足を運びました。

地域の皆様にもそうしたスポーツの良さをもっと知ってほしいと思っています。以前、JU硬式野球部の佐藤清監督や選手の協力で「東金少年野球大会」が開かれ、多くの地元の小・中学生が参加し、指導を受けました。このようなスポーツ交流ができるよう、会議所も協力してまいりたいと思います。

【略歴】
1949年10月生まれ、千葉県東金市出身。72年（昭和47年）、慶応義塾大学商学部卒業。2016年（平成28年）11月から東金商工会議所会頭。関東ホーム（株）取締役会長

関東地区大学選手権で初優勝

最優秀選手に舘、最優秀投手賞に中島が選ばれる　硬式野球部

スタンドからの熱い応援

城西国際大学硬式野球部は、「横浜市長杯争奪　第15回関東地区大学野球選手権大会（横浜スタジアム）」に出場し、11月1日、横浜スタジアムで行われた決勝戦で東海大学（冒頭大学野球連盟代表1位）に5-3で勝利し、初優勝を飾った。15日から開催される「第50回記念　明治神宮野球大会」に関東5連盟第1代表として初出場する。明治神宮大会では、17日（日）13時30分より広島経済大学（中国・四国3連盟代表）と対戦する。

決勝戦の相手、東海大学は、首都大学連盟のみならず、「大学野球の雄」といえる実績を誇る。相手にとって不足はない。先発投手は、弟がプロ野球で活躍する村上。一方、城西国際大学は、中島隼也（3年・仙台育英）が登板し、一回裏こそ本塁打を許し、1点先制されたが、その後は、安定したピッチングを続けた。

最優秀投手賞を受賞した中島投手

準決勝の白鴎大戦でタイムリーヒットを放つ梅田選手

試合が動いたのは四回。城西国際大学は、5番・村上太誠（3年・西条）の二塁打、眞田啓伍（2年・千葉英和）のタイムリーヒットなどで2点を奪い逆転した。その裏、東海大に同点に追いつかれたが、五回、4番・浜口広之（1年・創価）の二塁打、6番の主将・梅田彩斗（4年・長崎日大）の内野安打などで2点を加え、試合をほぼ決めた。エース中島は、七回で交代したが、この時点でも球速140㌔台をマークしていた。中島のあとは、島袋琢也（1年・長崎日大）、そして、準決勝で完封勝ちした舘和弥（3年・平塚学園）への投手リレーとなり、逃げきった。

この大会の最優秀選手には舘が選ばれた。また、中島が最優秀投手賞を受賞した。強豪・東海大を相手に、若いチームをまとめ、勝利に導いた主将・梅田の存在感も大きかった。

神宮大会出場に向け、佐藤清監督は「神宮が楽しみ。またチャレンジできる。出るからには優勝を目指します」と話した。

（中面に「華々しく決勝、準決勝および千葉県リーグ戦の記事」）

城西国際大	000	220	010	5
東　海　大	100	100	100	3

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験が長い職員が取材、書き方を基本から指導します。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生も募集しています。

連絡はこちらまで▶03・6238・1241
学校法人城西大学法人本部
広報センター

地域とともに　東金キャンパス
台風15号被災者に施設開放
9月10日から1週間　延べ500人が利用

開放された水田図書館で過ごす子どもたち

9月に襲った台風15号は、千葉県内に大きな被害をもたらした。東金市内でも断水・停電が発生した地域が目立った。城西国際大学東金キャンパスは停電にならず、断水も貯水槽でカバー。これを周辺住民の方に活用してもらおうと、9月10日から1週間、大学の図書館・食堂を避難所として開放した。初日には約300人の住民の方が、充電、休憩、食事などのため、施設を利用した。その後は、徐々に復旧が進み、減少するが、期間中は延べ約500人が利用した。

東金キャンパスは、東金市から「避難所」に指定されている。東日本大震災以来で、今回、大学側から東金市に施設開放を提案した。東金市のホームページのほかNHKでも、避難所情報として本学の施設開放をテロップで連日放送した。

また、今年4月に、福祉総合学部福祉総合学科子ども福祉コース主催の子育て支援ルーム「くじらキッズ」＝写真左上＝が開設されたが、こども自国15号で被災された方に開放された。対象は、4歳未満の子どもとその保護者・ご家族で、4歳以上の子どもも保護者の方の同伴のうえ利用できた。

開放日時は、9月23日、9月25日、9月27日、9月30日、10月2日、10月7日、10月9日、10月11日の午前10時から午後3時。利用料は無料で、9月中は赤ちゃんの3風呂も準備。家族で時間を過ごす中、本学の教職員、福祉総合学科子ども福祉コースの学生がスタッフとして入り、手伝った。

☆　☆　☆

9月29日、鴨川市四方木地区で「里山のひかり」を開催した。台風15号の影響で同地区も停電と断水などが長引き、日常の生活に戻るまで10日間前後を要した。そこで、地区の方々と実施可能性について協議し、同地区の癒しのイベントとして実施することになった。

当日は、観光学部の学生20人が参加。住民と一緒に台風で散乱した枝などを取り除いた。学生たちは「台風被害で大変だったと思いますが、さぞかな癒しのひとしずくすこ付ランタンを点灯した。ランタンは、地元の竹を活用して制作した。

「癒やしのともしび」点灯
――安房キャンパス・観光学部

JUから②　全日本大学女子駅伝6位 シード奪還
箱根駅伝予選会で総合15位　本戦出場逸す

【男子駅伝部】

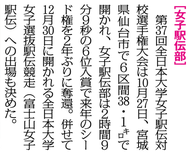
第96回東京箱根往復大学駅伝競走（箱根駅伝）予選会は10月26日、東京都立川市で行われ、男子駅伝部は11時間2分27秒で総合15位となり、10位までの本戦出場を逸した。今年正月の第95回大会で20位に沈んだ男子駅伝部。新チームは3年連続16回目の本戦出場へ目指して予選会に臨んだが、叶わなかった。また一年、「強い城西」に向けた再起への日々が始まる。

立川市の陸上自衛隊立川駐屯地から市街地を経て国営昭和記念公園に至るハーフマラソン（21・0975㌔）コースで行われ、各校12人が出走し上位10人の合計タイムで競った。

レース序盤は、エースの荻久保寛也（経営4）が留学生グループについて集団を引っ張る展開。最初の5㌔は6位通過と幸先良いスタートとなったが、10㌔地点で9位と順位を落とし、その後は浮上の兆しなく、最終的には15位となった。荻久保は1時間3分12秒で日本人2位。全体でも6位と力走。菊地駿弥（経営3）、松尾珣雅（経営2）、大里凌央（経営3）も1時間4分台で50位以内と健闘したが、総合では10位の中央大学に5分41秒及ばなかった。

【女子駅伝部】

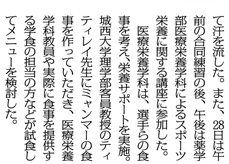
第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は10月27日、宮城県仙台市で6区間38・1㌔で開かれ、女子駅伝部は2時間9分49秒の6位と昨年のシード権を手ぶりに奪還。併せて12月30日に開かれる全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）への出場を決めた。



月刊陸上競技提供

25年連続26回目の全日本に臨んだ。1区で出遅れたものの、エース区間の5区で福嶋摩耶（経営1）が区間3位と8人抜きの快走で7位とシード権入り。最終6区で主将の三木桃香（現代政策4）が区間最高順位を上げた。写真。赤羽周平監督・有紀子コーチの下で、3度目の「日本一」を目指す女子駅伝部が復活のステップを上がっている。

JUから①　2020東京五輪ミャンマー選手団
鶴ヶ島市訪問し城西大で練習



2020東京五輪に参加するミャンマーの選手団が、ホストタウンの埼玉県鶴ヶ島市を訪れ、市民と交流するとともに隣接する坂戸市の城西大学の総合グラウンドや格技室（柔道場）で練習をした＝写真。

一行は陸上競技と柔道の選手9人と監督・コーチの計11人。8月26日に来日、27日は城西大学を訪れ、歓迎交流会に参加。歓迎交流会では白幡晶学長が、鶴ヶ島市がホストタウンになった経緯や城西大学とミャンマーとの浅からぬ縁を紹介した後、「昔からの友達の家に来た」と歓迎の挨拶。

一行を代表して陸上競技のキンキントウェ監督が「城西大学機会を与えていただきありがとうございます。今回の事前キャンプがオリンピックで実になるよう頑張っていきたいと思います」と感謝の言葉を述べた。午後はさっそく、城西大学の学生らとの合同練習をして汗を流した。また、28日は午前の合同練習の後、午後は柔道部医療栄養学科によるスポーツ栄養に関する講座に参加した。

医療栄養学科は、選手らの食事を考え、栄養サポートを実施。城西大学理学部客員教授のティリレイ先生にミャンマーの食事を作っていただき、医療栄養学科教員や実際に食事を提供する学食の担当の方などが試食してメニューを検討した。

思っていただきたい。本学のキャンパスで行う練習が来年のオリンピックに参加に有意義なものになることを願うとともに、ミャンマーと日本、地域、本学の友好がさらに深くなることを期待したい」と歓迎の挨拶。

一行を代表して陸上競技のキンキントウェ監督が「城西大学で練習する機会を与えていただきありがとうございます。今回の事前キャンプがオリンピックで実になるよう頑張っていきたいと思います」と感謝の言葉を述べた。午後はさっそく、城西大学の学生らとの合同練習をして汗を流した。また、28日は午前の合同練習の後、午後は柔道部医療栄養学科によるスポーツ栄養に関する講座に参加した。

医療栄養学科は、選手らの食事を考え、栄養サポートを実施。城西大学理学部客員教授のティリレイ先生にミャンマーの食事を作っていただき、医療栄養学科教員や実際に食事を提供する学食の担当の方などが試食してメニューを検討した。

医務室から

「健康の話」
――インフルエンザについて

学生課・医務係

皆さんは、インフルエンザワクチンは打ちましたか？

今年は、インフルエンザの流行が例年になく早く、夏休み前後から学級閉鎖のニュースも流れています。今年は、2009年の新型インフルエンザ（当時）の大流行に匹敵する患者数になる勢いのようです。特に沖縄及び熊本を除く九州に患者数が多くなっています。

1.インフルエンザと風邪の症状

	インフルエンザ	かぜ
発症	急激	ゆるやか
発熱	通常38℃以上の高熱	ないか、あっても37℃台
強い全身症状	ある	ないか、あってもまれ
上気道炎症状	全身症状の後から出現	最初から出現
咳	強いことが多い	軽い

2.予防

①**ワクチン接種**―ワクチン接種をすることで完全な予防にはなりませんが、かかる人や重症化する人を減らすことが出来ます。

②**十分な栄養と睡眠（抵抗力を高める）**

③**人ごみから帰宅したら手あらい**

④**咳エチケット**・咳やくしゃみをするときは、他の人から顔をそらす
・ティッシュなどで口と鼻を覆い、使用後のティッシュは捨てる
・咳やくしゃみが出ている間は、積極的にマスクを着用する

3.出席停止期間

インフルエンザと診断されたら、所属キャンパスの事務室または医務室に連絡をしてください。

発症日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
←――――――――――――――――――――――――→							
←――――――――――――――――――――――――→ 発症した後解熱したとしても5日出校不可							
←――――――――――――――――――――――――→ 解熱後2日経過後出校可					×	×	○

大学に来るときに、抗インフルエンザ薬処方説明書を持参してください。治癒証明書は、必要ありません。

JUのスポーツ辞典　NCAA

全米大学体育協会（National Collegiate Athletic Association）のこと。1910年に設立され、約1200校が加盟し、約40の競技団体と連携している。バスケットボールやアメフトなどの大会を主催して収益を加盟校に分配する一方、学業とスポーツの両立といった統一ルールを作り、米国の大学スポーツの発展に寄与してきた。

一方、日本の大学スポーツは、競技ごとの学生競技団体が発展し、横断的・統括的な組織が存在しなかった。今年3月、スポーツ庁が力を入れ、日本版NCAAである「大学スポーツ協会」（Japan Association for University Athletics and Sport／略称「UNIVAS」）が発足している。

JIUグッズをお試しあれ!

本学が考案し、販売している「JIUグッズ」は、たくさんあります。大学祭などの行事に合わせて販売所を設けております。

写真はそのうちの一部で、左から「ブルガリアンウォーター」「ローズクリーム」「リップバーム」。この3点は、薬学が専門の杉林堅次学長の研究開発商品です。「リップバーム」は、文房具の筆ペン容器からヒントを得て、化粧品容器を作りました。

問い合わせは、総務課（0475―55―8800）へ。

日韓W杯国際交流の思い継ぐ
――高円宮殿下記念ギャラリー

東金キャンパスの「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK（高円宮殿下記念スポーツパーク）内に「高円宮殿下記念ギャラリー」がある。

高円宮殿下が開催運営に尽くされた「FIFA日韓ワールドカップ　サッカー大会」（2002年）ゆかりの貴重な品々を展示しています。**写真**。国際交流における人と人との友好の大切さを説かれてきた高円宮殿下の思いを継承する場だ。地域住民の方も見学できるように開放されている。

【開館時間】10:00～16:00　**【休館日】**日曜日・祝日・本学休校日
＊見学希望の方は、事前に☎0475・55・8800まで連絡ください。

「ブダペスト―ヨーロッパとハンガリーの美術400年」展
――学校法人城西大学など協賛

日本とハンガリーの外交関係樹立150周年を記念する展覧会。ハンガリーの首都ブダペストにある「ブダペスト国立西洋美術館」を含めた3館が共同で開催する。学校法人城西大学などが協賛している。

「ブダペスト―ヨーロッパとハンガリーの美術400年」展は、12月4日～来年3月16日まで東京・六本木の国立新美術館で開催される。学校法人城西大学などが協賛している。

ハンガリーの名品130点が展示される。ルノワール、モネといった巨匠たちの作品をはじめ、19・20世紀のハンガリー作家たちの名作も含まれている。シニイ・メルシェ・パールの作品「紫のドレスの婦人（Lady in Violet）」＝写真上＝は、ハンガリーでは最も重要かつ魅力的な名画として、広く愛されている作品だ。

学校法人城西大学とハンガリーとの関係は深く、同国を代表する10の大学と交流協定を結んでいる。2013年11月には、オルバン・ヴィクトル（ORBÁN Viktor）首相が東京紀尾井町キャンパスに来学され、本学からの名誉博士記授与および特別講演会が行われた。

（編集）学校法人城西大学　広報センター　（発行）城西国際大学　総務課

JIU2チームで東関東秋季リーグ完全制覇

——観光学部軟式野球部が優勝、東金軟式野球部が準優勝

観光学部 軟式野球部 & 東金 軟式野球部

東日本大学選手権の決勝戦、サヨナラのホームインで優勝決定の瞬間

ともに東日本選手権出場し観光学部が優勝！

JIUには二つの軟式野球部がある。観光学部と東金キャンパスのそれぞれに編成されたものだ。所属する東関東秋季リーグを今秋、この2チームで完全制覇した。観光学部チームが優勝、東金チームが準優勝だった。さらに、この結果をもって両チームとも東日本大学選手権に出場。観光学部チームは決勝に進出し、延長11回サヨナラ勝ちで見事に優勝を果たした。JIUベースボールは、軟式、軟式ともに“実りの秋”を迎えている——

第28回東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦で観光学部軟式野球部が優勝、城西国際大学軟式野球部（千葉東金キャンパス）が準優勝し、両軟式野球部が第40回東日本大学軟式野球選手権大会に出場した。ともに帝京大学などのライバル校を破っての「東日本」に進出する快挙だ。

東リーグ・西リーグを勝ち抜いた上位3チーム（代表決定リーグ戦）を行い、優勝を争った。その中で東金・軟式野球部（千葉東金キャンパス）の健闘が光った。11年ぶりの東日本大学軟式野球選手権大会出場である。メンバーは2年生・3年生が中心で、勝利した試合は全て先制した。

軟式野球部（東金）の秋季リーグ（東リーグ）および東日本大学選手権の戦績は別表の通り。

優勝旗とともに笑顔の選手たち 東日本大学選手権

秋季リーグ戦、東日本大学軟式野球選手権大会の戦績

8月23日	第1戦	対・神田外語大学	6－3	［勝］
8月27日	第2戦	対・国際武道大学	5－1	［勝］
8月29日	第3戦	対・日本大学生産工学部	6－2	［勝］
9月23日	第4戦	対・城西国際大学観光学部	1－8	［負］

決勝リーグ

9月27日	第1戦	対・日本大学経済学部	0－7	［負］
10月3日	第2戦	対・日本大学理工学部	3－2	［勝］
10月5日	第3戦	対・帝京大学	9－4	［勝］

東日本大学軟式野球選手権

第1回戦	4－5	対・信州大学長野		

硬式野球部

2完投の投手陣に打線が応える

初連覇の県リーグでは4選手が受賞

村上のタイムリーで先制、中島が完投

——準々決勝（10月30日・横浜）

城西国際大は、同大会は、この試合から出場し、首都大学連盟2位の武蔵大学と対戦。三回表、1番・岸添有哉（4年・生浜）、3番・篠崎高志（3年・作新学院）の安打と、5番・村上の二塁打で2点を先制。その裏に1点を失ったものの、先発の中島が5安打1失点の完投。四回以降は三塁を踏ませない好投ぶりだった。球速140㌔台の速球とカーブ、チェンジアップを織り交ぜた投球は見事だった。

先制のタイムリーヒットを放った村上選手

神宮かかる大一番、舘が完封劇

——準決勝（10月31日・横浜）

この大会では、優勝校と準優勝校が神宮大会に出場できる。

その出場がかかる試合で、城西国際大は、白鷗大学を破った。初の明治神宮大会出場が確定した。

先発した舘が3安打2球の完封劇を演じた。前日、ヤクルトのドラフト3位・杉山、日本ハム同5位の望月と創価大の2本柱に痛打を浴びせた巧打線に的を絞らせなかった。

春のリーグ戦期間中、舘は存在感が大きいとは言えなかったが、秋に頭角を現してきた。前日は中島が武蔵大を一失点完投、そして悲願の神宮切符をかけた大一番は舘が投げきった。

好守でチームを支えた三遊間

2季連続6度目のリーグ優勝で初の春秋連覇

秋季リーグ戦で優勝した選手たちに胴上げされる佐藤監督

城西国際大学硬式野球部は、千葉県大学野球秋季リーグ戦で、第4節まで全勝（勝ち点4）で、最終節を待たず秋季リーグ戦の優勝が決定し、初の春秋連覇を達成した。

リーグ戦の優勝は通算6度目。最終的に10勝1敗勝ち点5で秋季リーグ戦を終了し、2季連続の優勝を果たした。初の春秋連覇である。

秋季リーグ戦の個人成績が発表され、城西国際大学からは4名の選手が選出された。

この結果、、柳浜市長杯争奪、第15回関東地区大学野球選手権大会 に出場する。

秋季は同大会において準優勝以上の結果を収めないと神宮大会に出場できないため、厳しい試合が予想される。

■プロフィール

部　長：七井誠一郎（経営情報学部教授）

監　督：佐藤　清

コーチ：田中成明

コーチ：道方友康

主　将：梅田裕斗

最優秀選手賞（初）、ベストナイン（捕手）（2回目）
梅田裕斗（4年・長崎日本大学）

最多勝（2回目）、ベストナイン（投手）（2回目）
中島隼也（3年・仙台育英）

ベストナイン（外野手）（2回目）
岸添有哉（4年・生浜）
村上公康（3年・西条）

東日本大学選手権 観光学部軟式野球部が優勝果たす

優勝の観光学部と準優勝の城西国際大学（東金）は、11月1日から神奈川県内で開催された第40回東日本大学軟式野球選手権大会に出場。城西国際大学（東金）は、惜しくも初戦で信州大学長野に敗れたが、観光学部軟式野球部は、快進撃を続けた。初戦では駒澤大学を5－2で破り、2回戦では流通経済大学に9－2で快勝し、準々決勝に臨んだ。この日も作新学院相手に踏ん張り、5－2で逃げ切った。

準決勝は、日本体育大学が相手。試合は3－3で延長戦にもつれ込んだが、十回、大会規定によりタイブレークの末、4－3で日本体育大学に勝利した。大接戦だった。この回、タイブレークの規定により無死一、二塁でスタートし、その表、6番・西田有宇喜（3年・松山商業）のキャッチャーゴロの間に、走者が進塁し、一死二、三塁に。続く池内海斗（2年・松山聖陵）が球を選び、満塁に。さらに久保田力（4年・松山聖陵）も四球、押し出しで決勝点を挙げた。十回裏は、一死満塁のピンチを迎えたが、右翼フライを捕った田坂蒼平（2年・今治北）が、ホームへ好返球し、タッチアップのランナーを本封して併殺でゲームセット。

6日のスタジアム泰野での決勝戦。白鷗大学・北関東大学軟式野球連盟第二代表）だ。試合はまたも延長戦にもつれ込んだ。大会規定により、十五回までは、タイブレークは行われない。2－2で迎えた十一回表、白鷗大に3点を許し、2－5になった。

だが、驚異的な反撃が始まった。その裏、一死から5番・山内敬太（1年・松山商業）のヒット、西田の四球などで二死一、二塁に。まず、8番・久保田が中前打を放って1点を返す。続く9番・石黒健哉（2年・大洲農業）が右越二塁打でさらに1点。1番の主将・重松諭（3年・今治北）が敬遠の四球で二死満塁。そして3番・高橋大河（2年・志学館）の内野安打と相手エラーがからみ、二者が生還して6－5の逆転勝利となった。

この大会の最優秀投手に久保田虎太、最優秀選手に重松が選ばれた。久保田は、流通経済大戦以外の4試合に先発した。それを支え、田力・曹大輝（1年・宇和）のリリーフ陣がよく支えた。

最優秀選手賞の主将・重松諭選手

最優秀投手賞の久保田虎太投手

東日本大学軟式野球選手権大会の戦績

第1回戦	5－2	駒澤大学
第2回戦	9－2	流通経済大学（七回コールド）
第3回戦	5－2	作新学院大学
準決勝	4－3	日本体育大学
決勝	6－5	白鷗大学

（全日本大学軟式野球連盟に規定により、夏に全国大会、秋に西日本大会・東日本大会の開催となっている）

秋季3年連続4度目優勝 ——観光学部軟式野球部

東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦で、3年連続4度目の優勝を果たした。東リーグ戦を4戦全勝、東リーグ首位で代表決定リーグ戦に進んだ。代表決定リーグ戦では、第1戦は日本大学経済学部に6－1、第2戦は日本大学理工学部に5－0、第3戦は帝京大学に3－2で勝利した。久保田虎汰（3年・松山商業）ら投手陣はリーグ戦・決定リーグ戦の7試合を計4失点に抑える力投ぶり。応援に駆け付けた観光学部協力会、観光学部軟式野球部後援会、鴨川市民、学生、教職員らは、惜しみない拍手を送った。

観光学部軟式野球部は、今年で創部10年。それに花を添えた。選手たちは、創部以来、指導してださる河上國男監督を、感謝の気持ちを込め胴上げした—**写真**。

観光学部軟式野球部の秋季リーグ戦績

秋季リーグ（東リーグ）戦

8月29日	第1戦	対・神田外語大学	13－0	［勝］
9月1日	第2戦	対・日本大学生産工学部	11－0	［勝］
9月4日	第3戦	対・国際武道大学	9－0	［勝］
9月23日	第4戦	対・城西国際大学東金	8－1	［勝］

決勝リーグ

9月26日	第1戦	対・日本大学経済学部	6－1	［勝］
9月26日	第2戦	対・日本大学理工学部	5－0	［勝］
10月8日	第3戦	対・帝京大学	3－2	［勝］

女子ソフトボール部 台北市国際親善試合

国際大会で見事な優勝

延長サヨナラで決勝制す　小野塚が完投

JIUを女子ソフトボール部が、8月14日から台湾・台北市で開催された「台北市国際親善試合」に出場し、優勝した。

タイ、シンガポール、マレーシアのナショナルチーム、台北市立大学、台北市内のトップアクラスの実力を持つ高校チーム、日本を代表してJIU女子ソフトボール部が参戦し、2日間に渡って熱戦を繰り広げた。決勝リーグ出場決定戦では、タイ・ナショナルチーム戦を制し、決勝トーナメント進出を決めた。決勝トーナメントでも勢いをそのままに勝ちまくり、決勝戦では、台北市立大学（台湾）と対戦し、延長九回までもつれる接戦となったが、見事勝利し、優勝の栄冠を手にした。

優勝までの道は—。初日の予選リーグ、第1試合目は、士林商業高校（台湾）に13－3で快勝。続く第2試合目のタイ・ナショナルチームとの対戦も、小野塚菜奈（「福祉総合2年・千葉経済大附属」）の好投で、投手戦となり七回終了時点で、1－1の同点。延長タイブレーク（無死ランナー二塁から始まる）に突入した。八回裏の守備では、好投した小野塚から代わった高石南奈子（経営情報1年・千葉聚明）が、タイ打線を0点に抑えた。そして、八回裏、JIUの攻撃、二死、ランナー二塁の場面で、植髙愛波（経営情報2年・千葉経済大附属）の打球が相手野手のエラーを誘って、三塁ランナーがホームイン。サヨナラ勝ちを収めて、決勝トーナメント進出を決めた。

2日目の決勝トーナメントの初戦（準決勝）は、台北市立大学である。華江高級中学（台湾）と対戦。三回に4番・鉾田沙美（経営情報2年・船橋高）の右中間への2ランホームランもあり、4－1で勝利。決勝は、台湾の強豪大学である、台北市立大学との対戦となった。

初回にJIUが4番・鉾田のタイムリーで点を先制したが、直後、台北市立大から逆転を許した。その裏のJIUの攻撃では、3番・都築ひなの（経営情報2年・聖徳高）、5番・山口優実（「福祉総合2年・千葉経済大附属」）の安打などでチャンスを広げて、一死満塁の場面で、6番・森田真琴子（経営情報2年・木更津総合）がセンターへ犠牲フライを放ち、2－2の同点。最後回、七回表に再度、台北市立大に逆転を許したが、その裏の攻撃では、4番・鉾田が今日2本目となるレフトへの豪快なホームランを放って同点に追いつき、延長タイブレークに突入した。

延長の八回、1点を取られて1点を取り返すという緊迫した展開となるが、九回の表を無失点に抑える。九回裏の攻撃、犠打でチャンスを広げると、小林南美（経営情報2年・篠ヶ井高）がライト前にサヨナラ安打を放ち、優勝を決めた。

この試合に先発した小野塚投手は、九回を二人で投げ抜いた。

優勝メダルを手に笑顔の選手たち

■プロフィール

監　督：高橋光平

コーチ：田邉敏彦

主　将：石井美怜

関東大学選手権は強豪相手に惜敗

関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦は、10月4日から開催予定だったが、台風1号・中止。一方、第20回関東大学ソフトボール選手権大会は東工大で行われ、城西国際大学は、10月27日、初戦で強豪・早稲田大学と対戦。

三回裏、一死一、二塁のピンチ

剣道部 東都学生剣道優勝大会

女子兵等が優勝、菅野が準優勝

男子個人戦 白石が準優勝

10月14日、姉妹校の城西大学で「第9回 東都学生剣道優勝大会」が行われた。出場大学は、男女共に2大学。個人戦は、男女各34人が出場した。

男子団体戦は、予選リーグ3位のため、決勝トーナメントへ進出できなかった。女子団体戦は予選リーグを通過して決勝トーナメントに出場し、結果は第3位となった。

個人戦は、男子が、白石紘登（経営情報3年・中京）が準優勝。女子は、兵等巨笑（経営情報4年・高岡高）が優勝、準優勝は菅野波瑠香（経営情報4年・安房高）、内藤慶（福祉総合4年・八女高）が3位に食い込んだ。

今井英雄監督は「男子団体は、11月の関東学生剣道新人戦大会に臨むメンバーで構成した。男女ともに、新人戦への弾みができ、稽古にも力が入ってくれるものと思う」と話す。

監督と元主将が海外研修団としてフランスへ

柔道部を指導する総務課の秋山修一さんは、現在、関東学生柔道連盟の事務局長。秋山さんは、創立者の水田三喜男先生が学び柔道にいそしんだ安房高校の出身。都内の大学卒業後、2000年秋に JIUの職員になり、柔道部の監督となった。

同連盟が所属している全日本学生連盟は、来年2月にフランス・パリへ海外研修団を派遣する。秋山さんとJIU柔道部の中谷昌雄・元主将（経営情報4年・木更津総合）も参加する。滞在中（2月5日～16日）は、ハイレベルの試合が続くグランドスラム・パリ大会や強化合宿の見学、現地の子どもたちとの交流が予定されている。

■プロフィール

部　長：渡邊修朗（経営情報学部教授）

監　督：秋山修一

助監督：新城友己

柔道部

上田が全日本学生体重別選手権に出場

関東大会3位入賞で出場権獲得

8月17日、18日に行われた関東学生柔道体重別選手権大会。男子は7階級に分かれて戦われたが、8㌔級に出場した上田泰成選手（経営情報3年・九州学院）が3位入賞した—**写真**。

まず2回戦、開始15秒の内までで一本勝ちで相陸横浜大の選手を降し、3回戦では第二シードの筑波大選手に優勢勝ちした。対戦した2人は、いずれも全日本ジュニア選手権に出場した強豪だった。準々決勝でも清和大選手を合わせ技で一本勝ちで。しかし、準決勝では山梨学院大選手に一本を取られ、敗退した。上田選手は、関東地区代表として9月末に秋田県立武道館で開かれた全日本学生柔道体重別選手権大会に出場した。

剣道部

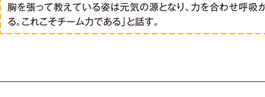
菅野が優勝、菅野が準優勝

大学祭オープンセレモニー今年も演武披露

「風林火山」力強く

11月3、4日、東金キャンパスにおいて「JIUフェスティバル」が開催された。剣道部は開催式で演武「風林火山」を披露した—**写真**。大学祭でその「雄姿」を見せるのは、今年で5回目。留学生別科で教えている日本舞踊飛鳥流三代目家元から手ほどきを受け始めたのは10月から。週に1回、1時間弱分程度、実技演習を受けた。学生たちは授業があるため全員が揃って手ほどきを受けることはないが、先生からの教えを、欠席者に教えることを本番直前までつなげた。迎えた本番、呼吸の合った男女計40人が約4分間、出陣を描く「風林火山」を力強く演じた。

剣道部の今井監督は「試合に出られる選手もいれば、出られない選手もいる。剣道の技術では差があるが、日本舞踊では、正選手ではない学生が胸を張って教えている姿は元気の源となり、力を合わせ呼吸が合ってくる。これこそチーム力である」と話す。



3JFes 多くの地域の方が来場し楽しむ

——芸人ライブ、模擬店など趣向こらす

10月14日、東京紀尾井町キャンパスの3号棟で「第3回城西大学・城西国際大学・城西短期大学の3校合同大学祭」（3J Festival）が開催された。

「3大学の学生が通う紀尾井町キャンパスでも大学祭を」との各大学からの希望により、2017年にわたって合同大学祭が実現した。

今年は10時に開場、オープニングセレモニーでは、3大学の学生代表が開催を宣言し、「3J Festival」がスタートした—**写真**。

合同大学祭では、3大学のゼミ、サークルなど学生が主体となって運営。舞台構成、音響設備、会場演出、展示、模擬店など、力を入れて準備し、盛り上げた。1階のエントランス・ステージでは、紀尾井町混声合唱団が美しい歌声を披露した。また、地下ステージでは、エアギター世界大会で2度チャンピオンに輝いたメディア学部卒業生の名倉七海さんの凱旋ライブ&トークショーが行われた。

3年目にして初めて吉本興業芸人によるお笑いライブも催されるなど、さまざまな趣向がこらされた。タピオカ、やきそば、ヨーヨー釣り、駄菓子屋さんなどの模擬店も特設され、地域に住む多くの方が来場し、楽しんでいた。

わたしと学生スポーツ

秋山修一

城西国際大学総務課、柔道部監督

柔道を始めたのは天津小湊町立小湊中学校（当時、現在・鴨川市）です。この学校は、男子生徒は、野球部、柔道部、剣道部のどれかに入部する「決まり」があり、結局、柔道部に入りました。当時の身長は170㌢、体重は70㌔ある大型でした。10数人部員がいましたが、入部3か月で、中学総体千葉県予選に出場しました。負けましたが、中学時代は、体が大きかったせいもあり、県の強化選手になりました。柔道の強豪私立高校からの勧誘がありました。また、地元の相撲大会に出て、大人たちと張り合ったことがあり、相撲部屋からも勧誘があったのを覚えています。

中学3年生の9月。進路を決めなければいけない時期ですが、自宅に帰ると千葉県立安房高校（館山市）の柔道部の先生が3名で自宅に来られ「安房高校に来ないか」と熱心にさそわれました。創立者の水田三喜男先生の母校の柔道部です。これで安房高校に進学を決めました。

高校総体で優勝経験もあり、練習は厳しかったです。毎朝、7時15分から朝練習がスタート。自宅からは外房線に乗り、鴨川駅で内房線に乗り換えますが、始発電車でも間に合わず、家族に車で送ってもらいました。その朝練習も、毎日、砂浜や田んぼ道での10㌔ランニング。昼休みはウエイトトレーニング、放課後は4時前から7時までの稽古です。3年生の時に副主将をつとめました。試合の前に高校近くの、三喜男先生の銅像があろ幡神社に行き、必勝祈願をしました。

高校卒業後は都内の大学に進み、選手として試合に出る傍ら学連の仕事を手伝っていました。2000年9月にJIUの職員となり、柔道部の指導も担当しています。

当時の部員は2名、2001年に4名の部員を迎え6名でスタート。14年に男女チームが東京・日本武道館での全国大会（団体戦）に出場するまでになりました。いま思うのは「スポーツを通して出会った人々との縁を大切に」ということです。

出会った人々との縁を大切に

JIUフェスティバル

開祭式に硬式野球部が登壇

——模擬店、ワークショップ、ライブなどで来場者楽しむ

JIUの大学祭「第28回JIUフェスティバル」が11月3・4日、東金キャンパスで開かれた。

開祭式では、明治神宮大会出場を決めた硬式野球部の佐藤清監督、梅田裕斗主将らが登壇し、拍手を浴びた—**写真**。

父母後援会による模擬店

敷地内には、留学生らが提供する「祖国の味」や、父母後援会、同窓会、ゼミなどが参加する模擬店が並び、来場者を楽しませた。各教室では学生が日ごろの研究成果を発表。約1300点を集めた「絵本ワークショップ」も開かれ、地域の子どもたちが集まった。また、キャンパスのあちこちで軽音楽、ダンス、人気お笑い芸人によるライブも催された。